

第6学年 「総合的な学習の時間」活動案

指導者 山崎 達矢

1, 単元名 災害に強い町づくり

2, 単元目標

- 竹田市の過去の災害や、竹田市の地形について調べ、災害が起きやすい原因や竹田市の災害対策について知り、自分たちができることを考えることで、地域の一員として防災の意識を高め行動することができる。
- 課題を解決するための方法を、筋道を立てて考え、課題に沿って情報を収集し、効果的な思考ツールを使って整理・分析し、発信することができる。

3, 評価規準

A：知識及び技能	B：思考・判断力・表現力等	C：学びに向かう力・人間性等
<p>①水害での被害や困りを知り、防災のための知識を身につけ、自分たちの生活との関わりがわかる。</p> <p>②情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身につけている。</p>	<p>【①課題の設定】</p> <p>○過去に起きた水害を知り、実際に災害が起きたときにどのような準備が必要か考え見通しをもって、追究計画を立てている。</p> <p>【②情報の収集】</p> <p>○保護者や地域の方・専門家の話やインターネット、本や資料などを使って情報を集めている。</p> <p>【③整理・分析】</p> <p>○思考ツールを使って、調べたことを分類したり比較したりしながら、多様の情報の中にある特徴を見つけている。</p> <p>【④まとめ・表現】</p> <p>○相手や目的に応じて「防災」について分かりやすくまとめ、防災集会やPTAで発表している</p> <p>【⑤ふり返り】</p> <p>○学習したことをこれからの学習や自分たちの生活に活かそうとしている。</p>	<p>【①主体性】</p> <p>○課題の解決に向けて、探究活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【②協働性】</p> <p>○課題解決に向けて、他者と協働して探究活動に取り組んでいる。</p> <p>【③自己理解】</p> <p>○自分らしさを発揮して探究活動に向き合い、課題解決に向けて取り組んでいる。</p> <p>【④他者理解】</p> <p>○自分と異なる意見や他者の考えを受け入れながら、探究活動に取り組もうとしている。</p> <p>【⑤社会貢献】</p> <p>○自分とふるさとの関わりを考えながら、進んでふるさとの活動に参加しようとしている。</p>

4, 指導の立場

(1) 子どもについて

6年生7名は、何事にも真面目に取り組み、協力しながら学校生活を送ることができている。授業中は、お互いの意見を尊重し合いながら、発表することが出来ている。しかし、自分に自信がなく、自分の考えがあっているか心配になり消極的になることがある。また自分の意見を書くときに何も書けずに作業が止まってしまう児童もいる。話してみると考えは思いついているがそれをうまく文字に起こせないなど支援を要する児童が数名いる。

昨年度、理科の時間に「流れる水の働き」の単元で、川による地形の変化や水のもつ力の大きさについて学習した。その後、昨年ダムの見学に行っており、防災と地域の施設について興味を持っている。そのときにダム事務所の方からダムの役割について教えてもらい、ダムが水害対策に関係していることを学んだ。今年度は1学期に、2020(R2)年の7月におきた豪雨の際に撮影された本校の目の前にある川の映像を見て、児童は水害が他人事ではなく、いつ起きてもおかしくないことを感じ、国語の授業で防災新聞を作っている。

これまでの総合の学習では、子どもの希望から竹田の名所である岡城について調べてきた。竹田の名所として有名な岡城であるが、その歴史やその見所などについて自分たちもあまり知らないため、それを調べ多くの人に伝えたいと考え活動してきた。そこで多くの人に知ってもらうためにパンフレットづくりを行い、のせる内容についてグループで話し合った。また、より詳しいことを調べるためにパソコンを使い情報収集を行い、スライドに内容をまとめてお互いに発表することが出来た。その際に一人一人、見やすいようにスライドを作ったり、分かりやすい資料を載せたりと工夫が見られた。

(2) 単元について

ここ竹田市では、過去に水害による大きな被害や地震による災害を何度も繰り返してきている。1982(S57)年の竹田水害、1990(H2)年の豊肥水害といった梅雨前線による集中豪雨、1993(H5)年や2005(H17)年には台風による被害を受けている。また、近年では2012(H24)年7月に発生した九州北部豪雨で、玉来川が急激に増水し氾濫を起こし、市街地は冠水し地域住民の生活に大きな影響を及ぼした過去の水害の回数や被害の大きさから児童は竹田市が水害に弱い場所なのではないかと感じ、水害対策の必要性を強く実感できると思われる。

過去の水害の被害から竹田市ではダムの建設や河川工事など様々な水害への対策をしている。今回は水害対策の取り組みの一つである現在建設中の玉来ダムを取り上げることにする。聞き取りや見学が可能であり、模型による実験など行うことでダムや河川工事が水害対策について大きな役割を担っていることに気づくことが出来るだろう。また、実験の中でダムがあっても川が氾濫してしまうところを見せてもらうことで、ダムのおかげで被害はかなり少なくなるが水害の可能性が0ではないことを実感出来ると思う。さらに、行政だけでなく「自分たちに出来ることはないか」を考えることで、みんなの力(自助・共助・公助)が必要であることに気づかせていく

ことが出来るであろう。

本単元を通して、地域の方や市役所、玉来ダム事務所の水害に対する取り組みを聞くことで周りの人と協力することの大切さに気づき自分のためだけでなく、地域のためにも動くことが出来るようになると思う。

(3) 指導について

まず、竹田市で起きた水害の写真や今年7月に起きた豪雨の際の稲葉川の様子を見せることで、竹田での水害の危険性について感じさせるところから始める。そして「竹田は災害に強いまちなのだろうか」と投げかけることで、竹田には災害が起きやすい原因があるのではないかと考えるであろう。そこで何が原因か予想を立てさせてパソコンや地図を使い情報収集を行い、マトリックス（思考ツール）を使いまとめさせることで、情報を整理・分析する力を身につけさせたい。

その後、水害に対策についてまとめた中で出た疑問について、専門家（ダム事務所）の方に話を聞きに行かせる。そこで聞き取った内容を整理させ、全校に向けて伝えたいことは何かグループで議論し新聞にまとめるようにする。ここで、新聞にまとめた内容だけで水害対策は終わりなのか投げかけることで、それ以外の取組についても考えさせたい。そして出てきた取り組みについて、マトリックスを使い自助・公助・共助の観点で整理することで、災害に強い町は、たくさんの人と人が協力して作る必要があることに気づかせたい。そして、災害に強い町に必要なことをパソコンを使いまとめさせ、全校児童や保護者、地域の方に向けて発表させる。

最後に振り返りとして、感想を書く中で自分たちが出来ることを確認させ、すでに出来ているものとまだ出来ていないものに気づかせ、今後、自分の生活に活かせるように指導していく。

5、郷土学としてのめざす姿

- 「郷土に学び、郷土を見つめなおす」とは、竹田市の過去の災害の様子から、竹田市が災害の起きやすい地形であることを知り、そのために竹田市や地域の人がどんな対策をしているのか調べようとする姿をとらえている。
- 「未来につなぐ」とは、地域の防災のために自分にできることがあることを実感し、進んで行動しようとする姿をとらえている。

6, 単元計画 (全 3 5 時間)

過程	おもな学習活動	【評価基準】(めざす資質・能力)
小 単 元 1 竹 田 市 の 水 害 を 知 ろ う ⑥	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 探究課題 </div> <p style="text-align: center;">竹田市は災害に強いまちなのか？</p>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 課 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> 竹田市の水害について調べよう。 </div> <p>○お家の人や地域の人に聞いたり、インターネットで調べたりして竹田市でどれくらい水害が起きているか、またどのような被害があったかを知る。</p> <p>《わかったこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和 57 年の竹田水害では、豊岡小学校が浸水して、大きな被害を受けた。 ・平成 2 年の集中豪雨では、稲葉川が氾濫してまた被害にあった。 ・平成 24 年の九州北部豪雨では、豊岡地区の被害は大きくなかったが、玉来側がだけ氾濫した。 <p>過去にかなりの回数水害が起きている</p> <p>○わかったことを表にまとめる。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> ま </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;"> なぜ竹田市では、水害がたくさん起こるのだろうか。 </div> <p>○インターネットや地図を使って、水害が起きやすい地形と竹田の地形について調べ比較する。</p> <p>《わかったこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの川が稲葉川と玉来川に流れ込んでいる ・山と山の間は水害が起きやすく竹田は盆地で山の中に町がある。 ・川の形が大きく曲がっているところが多い。 ・川の近くが平野で家が多く、コンクリートで舗装されており、土に水がしみこまず川に多くに水が行ってしまう。 	<p>【思考力】 自分なりの手段で、情報を集めることができている。 (B②)</p> <p>【表現力】 わかったことをまとめることができている。 (B④)</p> <p>【思考力】 自分なりの手段で、情報を集めることができている。 (B②)</p> <p>【思考力】 集めた資料をもとに、情報を関連付けて考えることが出来ている。 (B③)</p>	

考えよう ⑫	整	○学んだことを自助・共助・公助の観点で時系列（災害前・災害時・災害後）に沿って整理していく。	【思考力】 ○思考ツールを使って、調べたことを分類したり比較したりしながら、分類整理している。 (B③) 【協働力】 友だちと協力して発表の仕方を工夫することができる。(C③) 【主体的に生きる力】 自分たちにもふるさとのためにできることがあり、その成果を感じている。 (C⑤)
	表	○整理した内容を元に実際にどんな活動を行っているのか地域の人や専門家の方に話を聞く。	
	ふ	○調べたことを自助・共助・公助の視点でまとめ、発表する。	
		○発表の感想を書き、学んだことを振り返る。	

7. 本時案（24/35）

(1) 題目 災害に強い町に必要なことはなんだろう。

(2) 主眼 水害について自分たちができることについて付箋やマトリックスを使って考え、自助・共助・公助の観点に沿って話し合うことを通して、防災の取り組みにはたくさんの人と人との協力が必要があることを理解することができる。

(3) 展開

学習活動	時間	指導及び支援	評価の観点
1, 前時までの振り返り	3	○書いてきた新聞を使い、授業の流れを振り返る。 ○各自で考えた水害への取り組みを振り返る。	
災害に強い町に必要なことはなんだろう。			
2, 前時で考えた水害に関する取り組みについてグループで共有し、仲間分けする。	20	○前時に考えた水害が起きたときの取り組みについてグループで交流し、自分や家族で出来るものと出来ないものに分けさせる。 ○最初に例を挙げて、自分も出来るが周りの協力もあるものなどは、表の真ん中においていいことを伝える。 <自分や家族で出来ること> ・防災バックの準備 ・ハザードマップの確認	自分が出ることと出来ないことについて考えている。 (会話・模造紙)

<p>3, 自助・公助・共助の観点で仲間分けをする</p> <p>4, 全体で交流する</p> <p>5, まとめを行う</p>	<p>10</p> <p>2</p> <p>5</p>	<p><周りの協力があるもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・がれきの片付け ・避難所の掃除 <p><自分や家族で出来ないもの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅の建設 ・給水や配給 <p>○自助・共助・公助の考え方を教えて、自分たちが分けた三つのグループのどれが自助・共助・公助であるか考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族で出来ること→自助 ・周りの協力があるもの→共助 ・自分や家族で出来ないもの→公助 <p>○お互いが分けたものを見て気づいたことを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害が起きる前は自助が多い ・災害後は公助が多い ・災害が起きているときや災害が起きた後は共助が多くなっている。 <p>○課題にふりかえり、災害に強い町に必要なものは何か問いかける。</p> <p>※自助・共助・公助を行う人がだれなのかを確認し、人と人が協力していることに意識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助・共助・公助の三つが大切。 	
<p>災害に向けての取り組みには、自助・共助・公助の取り組みがあり、いろんな人が協力して行う町が災害に強い。</p>			
<p>6, ふりかえりを行う</p>	<p>5</p>	<p>○今日の授業を通して分かったことや感想を発表させる。</p>	

8, 考察

(1) 教材（素材）は、子どもの意欲を高めるものであったか。

○どの子も一生懸命に授業に取り組む姿がよかった。

○ダム見学など身近な対策について興味をもって取り組むことが出来た。

(2) 思考ツールは、探究的な学習につながっていたか。

○前時に自分の考えを付箋に書いていたので、スムーズに活動ができていてよかった。

△たくさんの意見が出ていて良かったこちらでもう少し付箋の数を絞っても良かった。

→交流の時、お互いに考えたものを見合うだけだったので、数を絞ることで考えたことを発表する時間の確保をしても良かった。

(3) 地域のために自分たちにできることはないか考え、行動しようとする姿につながっていたか。

○子どもたちは自分が出来ることと出来ないことについて相談しながらよく考えることが出来ていた。

△途中、時間があつたため、自助・共助・公助でもう一度移動させたが、それよりもまとめのところでだれが行っているか、人に注目させる時間を多くとれば良かった。

△まとめの言葉の自助・共助・公助を最初から出すのではなく、それぞれの特徴を見ていき子どもの言葉で「自分で出来ること」「協力してできること」「行政におねがいすること」などでまとめてから、自助・共助・公助の考え方を出したほうが良かった。

(4) その他

△まとめ・振り返りのワークシートを準備しておき、書かせた方が残るのでよかった。



【ダム見学】



【ダムのモデル実験】



【自助・共助・公助に仲間分け】